

## 会議録

会議の名称	令和2年度 第3回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	令和2年11月11日（水） 午後7時から午後8時30分
開催場所	田無庁舎202・203会議室
出席者	委員：廣瀬委員長、田中副委員長、藤井委員、葛西委員、島田委員、濱崎委員、中村委員、田邊委員、中野委員、青木委員 事務局：堀文化振興課長、文化振興課栗林課長補佐（兼文化振興係長）、文化振興課文化振興係山本主任、文化振興課文化振興係蓮見主事
議題	1 第2回西東京市文化芸術振興推進委員会議事録（案）について 2 「令和2年度施策・事業評価（令和元年度分）」調査結果について 3 その他
会議資料の名称	【当日机上配布資料】 資料1 西東京市第2期文化芸術振興計画「令和2年度施策・事業評価（令和元年度分）」調査表
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

### 会議内容

【以下、廣瀬委員長にて議事進行】

1 開会

2 【議題1】第2回西東京市文化芸術振興推進委員会議事録（案）について

・事務局にて「第2回西東京市文化芸術振興推進委員会議事録（案）」を作成し提示。  
委員より異論がなかったため、正式な議事録として承認を得た。

3 【議題2】「令和2年度施策・事業評価（令和元年度分）」調査結果について

・本日議論していただく基本方針4「伝統文化等の継承」及び基本方針5「交流による活動の拡大・活性化」について、事務局より説明。  
・調査表18ページ 基本方針4「伝統文化等の継承」 施策1文化財の保存・継承と活用 から議論を行った。

○委員：

・調査表18ページ【4-1-1】社会教育課及び【4-1-2】公民館の自己評価がB評価となっているが、詳細を聞いているか。

○事務局：

・社会教育課については、文化財所有者の高齢化等による後継者問題に課題があるため

B評価としたと聞いている。また、公民館については、今後、社会教育課と連携して、文化財を活用した事業の拡大を検討する予定であるが、令和元年度については1事業しか実施することができなかったことからB評価としたと聞いている。

○委員：

- ・調査表18ページ【4-1-3】情報推進課の主な実績にスマートフォン用まち歩き・防災アプリ「いこいな西東京ナビ」のダウンロード数について記載があるが、このアプリはいつからダウンロードが可能になったのか。

○事務局：

- ・確認が必要なため、次回会議で回答する。

○委員：

- ・このアプリはスマートフォン以外からも見ることが可能なのか。また、アプリをダウンロードしているのは若者と高齢者どちらの割合が多いのか。

○事務局：

- ・アプリについては、スマートフォン専用と思われるが確認する。また、年齢層に関しても確認が必要なため、次回会議で回答する。

○委員：

- ・このアプリの普及は良いことだと思うので、多くの方に使用してほしいと思う。しかし、実績に記載のあるダウンロード数が、目標としていた数値を達成しているかどうか不透明であるため、ダウンロード数の目標値を記載した方が良い。

○委員：

- ・調査表19ページ【4-2-1】文化振興課の主な実績に、伝統文化等継承事業補助金の活用実績が記載されているが、市内にある「保谷ばやし保存会」について、どのような活動をしているか把握しているか。

○事務局：

- ・活動の担い手が不足しているらしいが、定期的に練習を行っていると聞いている。また、第19回西東京市民まつりの際、農業コーナーにおいて演奏をしていた。

○委員：

- ・市の伝統文化等継承事業補助金を交付した「速間流田無ばやし保存会」についても、後継者に受け継ぐ機会が少なく、会の運営に苦慮していると聞いたことがある。

○事務局：

- ・市としては、伝統文化等継承事業補助金の交付により、若い世代に参加する機会を作ることで、後継者に受け継ぎ、地域に根付かせた継承としていくことを期待している。

○委員：

- ・「速間流田無ばやし保存会」と「保谷ばやし保存会」は、合併前にそれぞれの市ごとに活動していたと思うが、今後、「西東京ばやし保存会」といった団体はできないのだろうか。また、市内にある「お囃子」はこの2団体のみなのか。

○事務局：

- ・活動を維持していくことで精一杯という状況であると聞いている。また、市で把握しているのは、2団体のみである。

○委員：

・調査表19ページ【4-1-3】図書館の主な実績にある「西東京市デジタルアーカイブ」について、図書館に行かなくても、貴重な資料がインターネット上で閲覧することができるのは、とても良い取組みである。引き続き、さらなるデジタル化について、検討を進めていただきたい。

○委員：

・調査表19ページ【4-1-4】社会教育課の自己評価がB評価となっており、今後の展開を見る限り、市の歴史文化に関する副読本等の刊行の検討が進んでいないことが評価の理由であると思うが、その認識で良いか。

○事務局：

・お見込みの通りである。

○委員：

・そうであれば、B評価とした理由について、詳細に記載した方が良い。

○委員：

・調査表20ページ【5-1-1】及び【5-1-2】障害福祉課の自己評価がB評価となっているのは、フレンドリーまつりが中止となったという認識で良いか。

○事務局：

・お見込みの通りである。

○委員：

・実施できた主なイベントについては、来場者等を詳細に記載した方が良い。また、B評価とした理由を具体的に記載した方が良い。

○委員：

・【5-1-1】及び【5-1-2】の障害福祉課並びに高齢者福祉課の主な実績等が同じ記載となっている。調査表の取組の内容や概要に合わせた記載にした方が良い。

○委員：

・記載内容が同じになっている件について、事務局より所管課へ修正は依頼したのか。

○事務局：

・調査表については、一通り議論をしていただいた後に、各委員からいただいたご意見を踏まえ、所管課には、同じ内容でも取組の内容や概要に合わせて、評価の理由、今後の展開等について内容を記載するように修正を依頼する。

○委員：

・前回の会議の中で、障害福祉課や高齢者支援課については、文化芸術の接点について知っていただくため、推進委員会に来ていただくことを提案した。そのことについて、伝えていただきたい。

○委員：

・調査表21ページ【5-2-1】保谷こもればいホールの主な実績にもあるが、令和元年度にスポーツと関連したイベントとして、ラグビーワールドカップパブリックビューイングを実施した。また、地元の農家に協力していただき、アウトリーチ事業を実施する等、他分野と連携した事業を展開した。保谷こもればいホールの向かいにはスポーツセンターがあり、普段は文化とスポーツで利用者も異なるなか、パブリックビューイングの際には、スポーツに興味のある方が保谷こもればいホールに実際に来て、ラグビーを観ていただくことができた。今までにない雰囲気活気があり、他分野と連携した

取り組みは、文化芸術の分野としても相乗効果があると感じた。今後も、継続して実施していきたいと考えている。

○事務局：

- ・ラグビーワールドカップのパブリックビューイングを実施した際、日本対アイルランド戦ということもあり、保谷こもれびホールのカフェにてアイルランドにちなんだ料理を提供いただいたのはとても良かった。現在も、イベントの際には関連したメニュー等の提供をいただいている。

○委員：

- ・イベント事業と連動したメニューの提供等については、今後も継続していきたい。

○委員：

- ・こうした事業展開で活気に満ち溢れることはとても良いことである。こうした取り組みを増やしていただきたい。

○委員：

- ・ラグビーワールドカップのパブリックビューイングは、放映権を取得しないと放映できないという認識で良いのか。

○事務局：

- ・お見込みの通りである。保谷こもれびホールでの実施については、指定管理者より申請の手続きを行った。また、同日、アスタのセンターコートにおいても、スポーツ振興課がパブリックビューイングを実施した。

○委員：

- ・パブリックビューイングを実施した際、J:COMで取材を実施した。まちの活気を高め、地域全体で応援することは、まちを活性化するという意味で、良い取り組みだと思う。

○委員：

- ・調査表22ページ【5-2-1】都市計画課の自己評価が、調査を未実施ということでC評価となっているが、「第二期西東京市人にやさしいまちづくり推進計画」を策定し、その計画に基づき施策を実施しているのであれば、書き方次第でA評価になるのではないか。C評価にするのであれば評価の理由を明確に記載した方が良い。

○事務局

- ・詳細を記載するように所管課に修正を依頼する。

○委員：

- ・調査表21ページ及び22ページ【5-2-1】の取組の内容について、「各関連分野との連携による文化芸術事業の実施」とあるが、どの分野と連携して実施したのか全体的に記載がない。連携した分野がわかるように記載をした方が良い。

○委員：

- ・調査表22ページ【5-2-1】社会教育課の評価の理由では「地域への愛着の増進にもつながった」としているが、B評価としている。B評価としたのであれば、具体的に達成できなかった理由を記載した方が良い。

○委員：

- ・調査票22ページ【5-2-1】公民館の評価の理由に「様々な連携について、検討する必要

がある」と記載されているが、どのような連携が必要なのか具体的に記載した方がよい。

○委員：

- ・調査票22ページ【5-2-1】社会教育課の主な実績に「しーた」「のーや」等を活用した商品の販売とあるが、どのような商品を販売しているのか。

○事務局：

- ・「しーた」「のーや」等を活用した商品は、地域の商店や業者とコラボをしているものがあり、コインケースに「しーた」「のーや」の焼き印を入れたもの等がある。

○委員：

- ・まちテナ西東京にも商品が置かれている。コインケースのほか、下野谷遺跡をイメージしたクッキーやマドレーヌもある。

○委員：

- ・調査票22ページ【5-2-1】社会教育課の主な実績に屋敷林をめぐる事業（保谷のアイ）の記載があるが、屋敷林に関する予算はどのくらい計上されているのか。

○事務局：

- ・屋敷林全体の緑地保全に関する予算が多く占めていると聞いている。その中の取組みの1つとして、社会教育課では、かつてこの地域で栽培され、生活文化として根付いていた藍を市民に知っていただくといった取り組みを実施している。

○委員：

- ・「保谷のアイ」については、より多くの人に広めるべき。保谷の歴史として、藍で財を成したから、鉄道が開通し、まちとして発達してきた。保谷とアイの結びつきを広め、このまちがどのように成り立ってきたか理解することも必要である。今後の事業の発展に期待する。

○委員：

- ・調査表23ページ【5-3-2】社会教育課の自己評価はB評価となっている。評価の理由で早稲田大学との連携に向けた調整ができたと記載されているのに、なぜか。

○事務局：

- ・連携に向けた様々な調整を実施したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により講演会が中止となったため、B評価となったと聞いている。

○委員：

- ・オンラインでの実施という選択肢は、この時期にはなかったという認識で良いか。

○事務局：

- ・お見込みの通りである。

【以下、田中副委員長にて議事進行】

- ・調査表23ページ 基本方針5「交流による活動の拡大・活性化」 施策3多様な担い手の連携によるまちづくり 【5-3-3】教育機関とのイベントの実施 から議論を行った。

○委員：

- ・文化芸術活動を行っている団体は市内に多くあるが、その団体同士が連携することについてはまだ進んでいない。団体同士の連携ができれば、より一層活動が盛んになる

と思う。また、活動をPRできる場所を活性化させていくことが、一つの解決につながるのではないかと。

○事務局：

- ・最近、個人主義といった風潮が強いこともあり、そのようななかで、人と関わる、団体同士で関わるということをあまり好まない方々もいるのだろうか。

○委員：

- ・文化活動をしている方は、コミュニケーションも積極的に取る方が多いのではないかと。

○委員：

- ・市報だけではどこでどのような活動が行われているのかわからない人もいる。テレビで紹介されれば観る方もいるかと思うが、新聞を取る人も減っているなかで、市内の文化活動に関する情報を入手することが困難な方も増えているのではないかと。

○委員：

- ・市内には多くの市民団体があるが、最初に団体を作った方が次の世代が入りやすい仕組み作りができていないように思う。その仕組み作りが進めば、解決の一つになるのではないかと。

○委員：

- ・市民団体の存在について情報を把握しにくいことも要因の一つではないかと。

○委員：

- ・ジュニアオーケストラ等、子どもが入りやすい団体もある。

○事務局：

- ・ジュニアオーケストラ等から見て、声掛けやPRの方法等、若い世代が入りやすいような仕組みはあるのか。

○委員：

- ・子どもの団体は、親がその活動を見つけてくる。子どもをターゲットにしつつ、親を惹きつけるため、HPやSNSを上手に活用して情報を発信している。

○委員：

- ・着物に関するイベントを行ったところ、若者から高齢者まで幅広い参加があった。そのイベントでは、高齢者は交流しないが、若者は初対面でもお互いに写真撮影をする等の交流をしていた。高齢者は決まり事を守らないといけないという考えが強いが、若者は考えが柔軟であると思う。そこに考えの違いがあるのだと感じた。

○事務局：

- ・市民文化祭でも着付けの部があるが、若者の参加はあるか。

○委員：

- ・若者は入ってこない。夜に活動を行っている団体もあるが、仕事の関係で練習に参加することが難しく、その団体においても若者は参加していない。また、着物を着る方自体が減ってきている。昔は、結婚するときに着物を持たされていたが、最近はそうした伝統が無くなってきている。

○委員：

- ・団体の活動やイベントへの参加等を通じたきっかけ作りを考えていく必要があり、特に若い人には着物という文化を継承してもらいたい。

○委員：

- ・調査表23ページ【5-3-3】企画政策課の主な実績で、これまでは早稲田大学か東京大学

の記載しか無かったが、今回は武蔵野大学についても記載されている。今後も、市内にある3つの大学と連携を図ってほしい。

○委員：

- ・調査表24ページ【5-3-3】教育指導課の主な実績で「地域のイルミネーションを学校と地域が協力して作成した」と記載があるか、どこで実施したのか。

○事務局：

- ・確認が必要なため、次回会議で回答する。

○委員：

- ・調査表24ページ【5-3-4】文化振興課の主な実績で市民まつりについて記載があるが、来場者は具体的に何人か。

○事務局：

- ・実行委員会発表では、2日間で10万人であった。以前に開催された推進委員会において、実行委員会発表は不確かなものであるため、掲載しないほうが良いのではないかというご意見をいただいたことを踏まえ、来場者数までは記載していない。

○委員：

- ・来場者数を市として公式に発表しているのであれば、記載をしたほうが良いのではないか。

○事務局：

- ・実行委員会発表として公式な資料にも掲載しているため、「10万人（実行委員会発表）」と記載する。

○委員：

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は事業を中止しているものが多々あるため、実施までの過程についても評価する等、評価の基準や記載の仕方等については、改めて整理しておくことが必要ではないか。

○委員：

- ・調査表24ページ【5-3-4】産業振興課の今後の展開で商店街の体制等により、継続実施が難しくなっているとの記載があるが、実際に商店街は減っており、商店街同士の連携が難しくなる等、大きな課題であると認識している。

○委員：

- ・西武柳沢駅北口の商店街においては一度減少したものの、ここ2～3年で増えてきていると聞いている。

○委員：

- ・商店街は、地元の人が多いのだろうか。

○委員：

- ・一部の商店街では、地元の人が約7割いると聞いている。

○委員：

- ・市民まつりのような近隣市のイベントに、いこいなやめぐみちゃんが参加していることがあるが、そうした貸し出しはどこが所管しているのか。

○事務局：

- ・いこいなは企画政策課、めぐみちゃんは産業振興課が所管している。

○委員：

- ・市民まつりについて、毎年、近隣市と同じ日程で行われるのはなぜか。

○事務局：

- ・近隣市がどういった事情で日程を決めているか把握していないが、西東京市民まつりが現在の形で実施されるようになった経緯としては、市民まつり、農業祭り、産業祭を合併の象徴として一本化できないかとの市長の発言に基づいている。市民まつりの農業コーナーにおいて、農産物品評会や野菜の宝船の制作に必要な野菜が確保できるタイミングから、現在の日程になっていると認識している。

○委員：

- ・J:COMで取材等をする中で、近隣市においても農業祭等がベースとなって日程が決まっているとの話を聞いている。

#### 4 【議題3】その他について

○事務局：

- ・調査表に関して、各委員からいただいたご意見については、事務局にて評価コメント案として整理する。評価コメント案については、後日改めてお示しする。

#### 5 閉会

以上